



- この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。
- 本製品の薄壁用は壁厚(117~138mm)、厚壁用は壁厚(137~175mm)、204用は壁厚(113~117)まで取付けられます。

■取付けされる方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

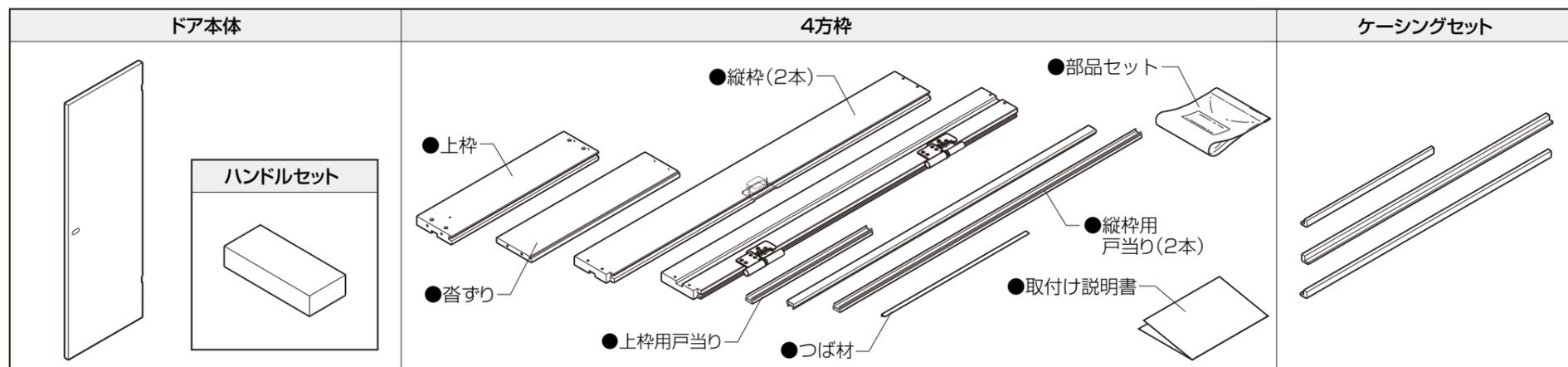
▲注意

- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず押下げてください。軸が下がっていないと、本体脱落の原因となります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

■取付け上のお願

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
 - 造作材の取付け・建具のかい木には、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
 - 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
 - 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
 - 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
 - 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
 - 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
 - 丁番は指定のねじで締付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
 - 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、必ずすき間をつくって納めてください。
 - 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさの間には、必ずかい木を入れてください。
 - かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
 - 床材とツバ付薄沓ずりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。
 - ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
 - 現地張りタイプの場合、和室側をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
 - ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
- ※建築工事中は、ドア本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細



■枠セット明細

| | 標準ドア |
|-----|-------|
| 縦 枠 | 2 |
| 上 枠 | 1 |
| 戸当り | 縦2・上1 |
| 沓ずり | 1 |
| つば材 | 1 |

■ケーシングセット明細

| | |
|---------|---|
| 上用ケーシング | 1 |
| 縦用ケーシング | 2 |

■本体丁番ねじセット
(枠に同梱、丁番にテープ止め)

| | |
|-----------------------|----|
| 本体取付けねじ(皿タッピンねじφ4×20) | 8本 |
|-----------------------|----|

■ハンドルセット

| | |
|----------|----|
| レバーセット | 1組 |
| 座セット | 1組 |
| ハンドル固定ねじ | 1本 |
| 箱錠セット | 1組 |
| 箱錠取付けねじ | 2本 |

■取付け範囲

(単位:mm)

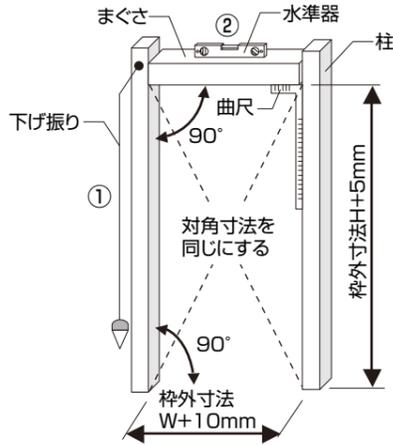
| | 薄壁用 | 厚壁用 | 204用 |
|------|---------|---------|---------|
| 対象壁厚 | 117~138 | 137~175 | 113~117 |

■部品セット

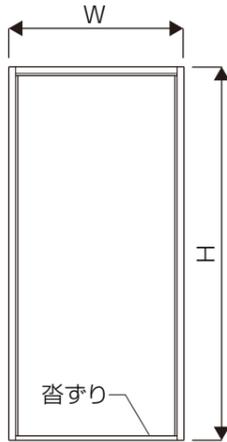
| | |
|------------------|-----|
| 組立て用皿小ねじM4×50 | 8本 |
| 枠取付け用皿木ねじφ3.8×50 | 18本 |

●ドアストッパーセットは別売りです。

開口部の作り方

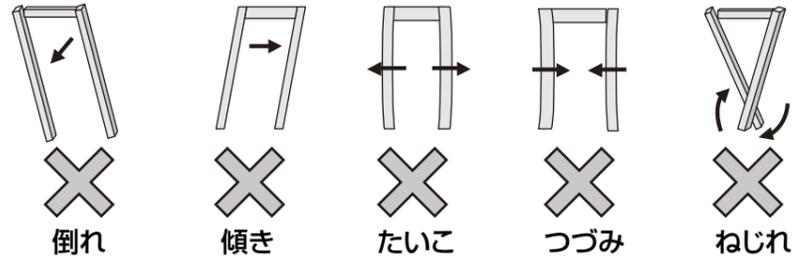


●製品寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



組立て・取付け順序

- 1 枠の組立て
- 2 枠の取付け
- 3 戸当りの取付け
- 4 つば材の取付け
- 5 ケーシング材の取付け
- 6 ドア本体の取付け
- 7 把手の取付け
- 8 建付け調整
- 9 ドアストッパーの取付け

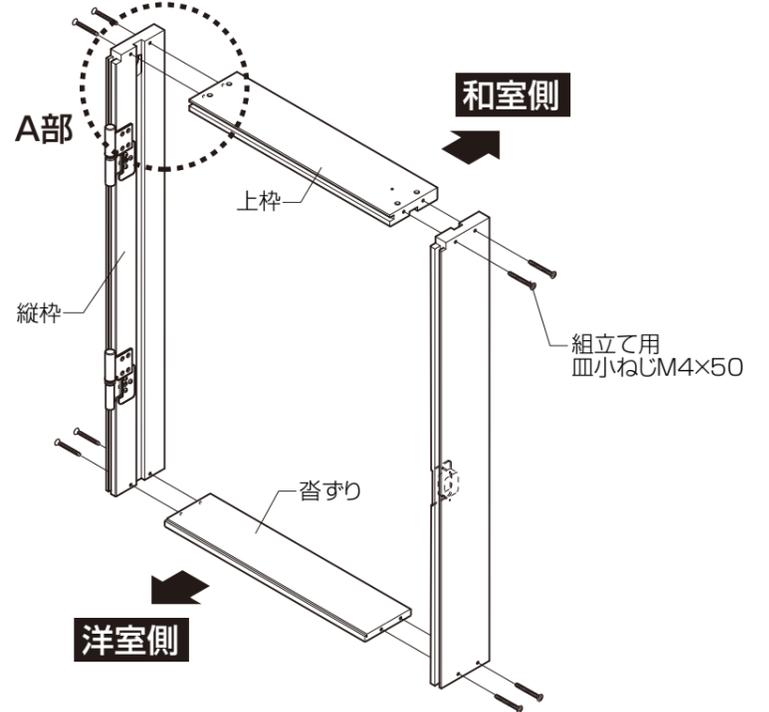
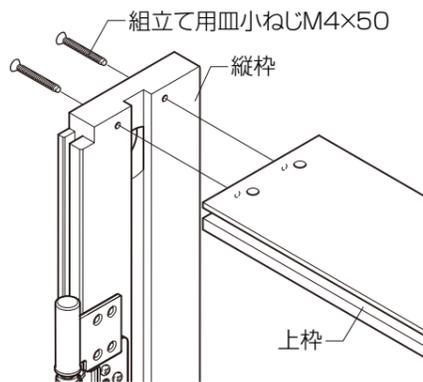
組立て・取付け詳細

※本取付け説明書は、「外開き」で手順を説明しています。「内開き」の場合は、丁番・ドア本体の向きを読みかえて参照してください。

1 枠の組立て

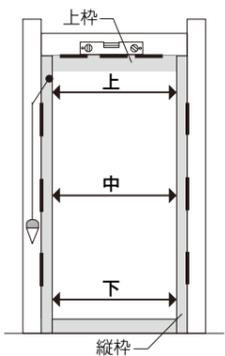
- 上下枠と縦枠を、同梱のねじで固定します。

■A部詳細図

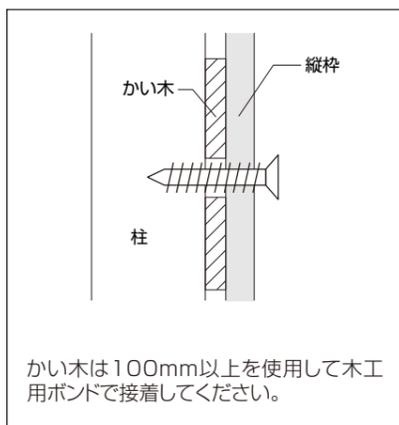
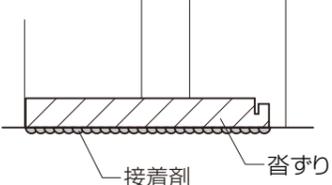


2 枠の取付け

- ①皿木ねじで戸当り溝部下穴より躯体に取付けます。
 - ②上下・左右のすき間をかい木で調整し、水準器・下げ振りを使って枠に倒れ・傾き・ねじれがないこと、開口寸法(W寸法)が上・中・下の箇所で揃っていることを確認した後、ねじを本固定してください。
- ※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。

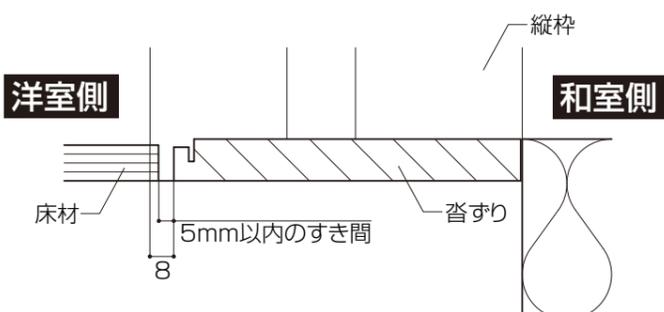


※沓すりは、接着剤(現場手配)を塗布し、躯体に固定してください。



かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

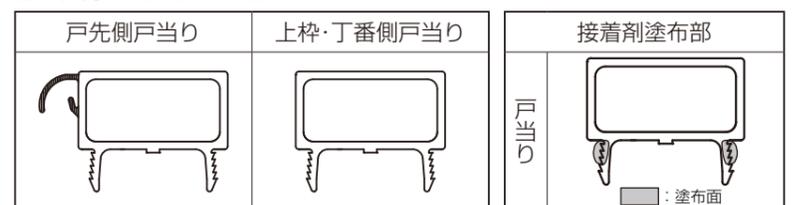
- ③枠取付け後、下図のように床材を張ってください。



●お願い
●床材と沓すりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあげないでください。

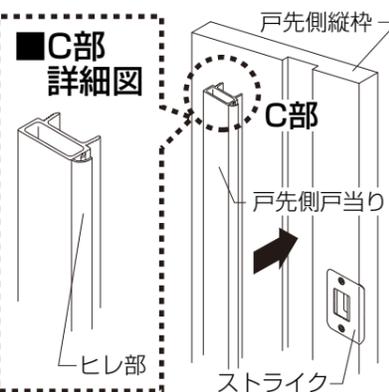
3 戸当りの取付け

戸先側と丁番側で戸当り形状が異なります。事前に確認してから取付けしてください。



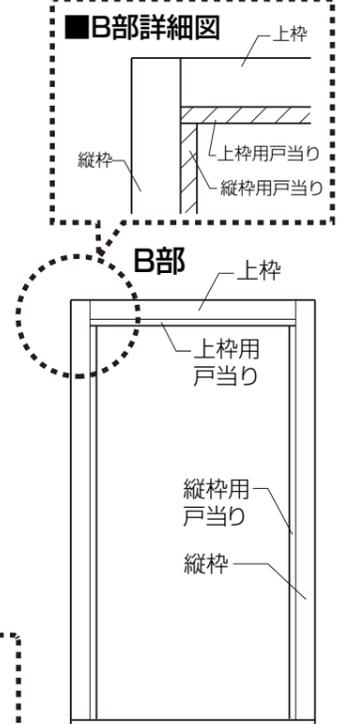
- ①現場で戸当りの寸法を合わせて切断してください。
 - ②戸当りの足の外側(リップのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください(塗布面は下図参照)。接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ずふきとってください。
- ※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。

■C部詳細図



戸先側戸当りはヒレのある側がストライク側を向くように取り付けしてください。

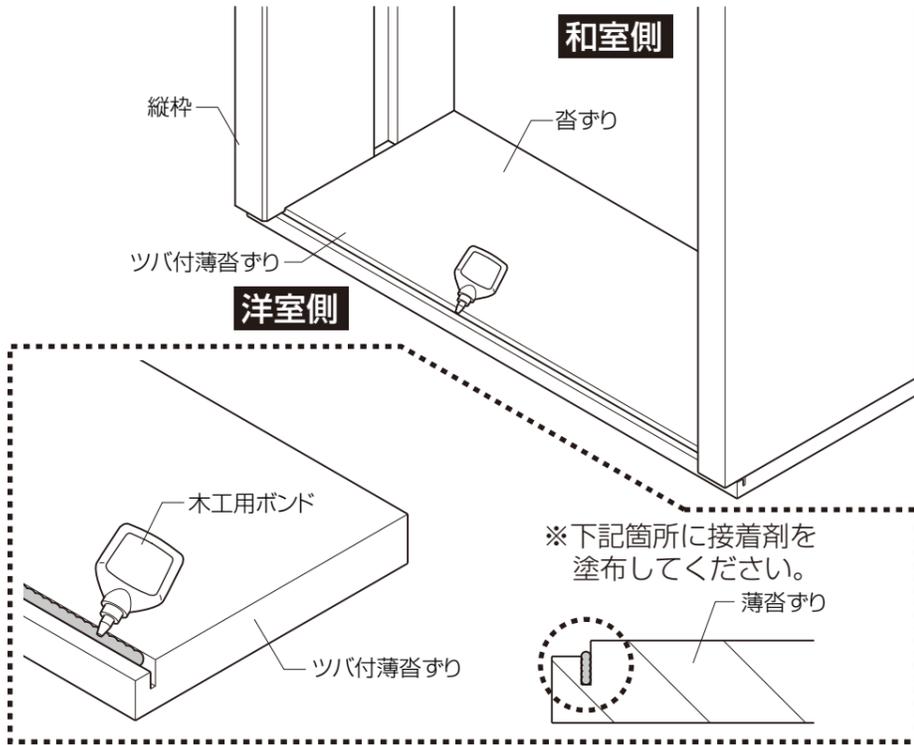
■B部詳細図



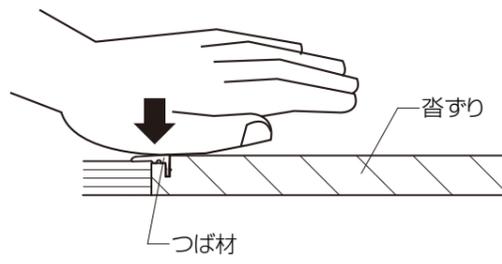
●お願い
※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。

4 つば材の取付け

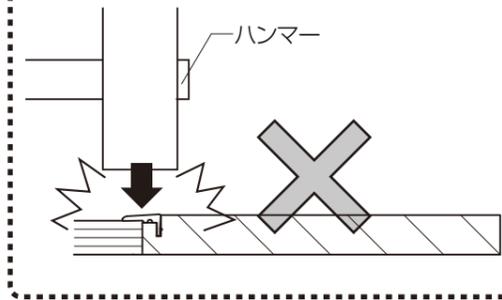
- ①現場で開口寸法に合わせてつば材を切断してください。
- ②沓ずりの溝に接着剤(現場手配)を溝全長に隙間無く塗布してください。



- ③つば材を溝に手ではめ込んでください。

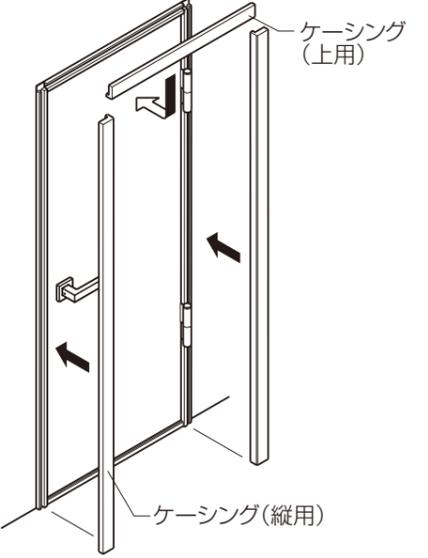


●お願い
●ハンマーなどでたたき込まないでください。



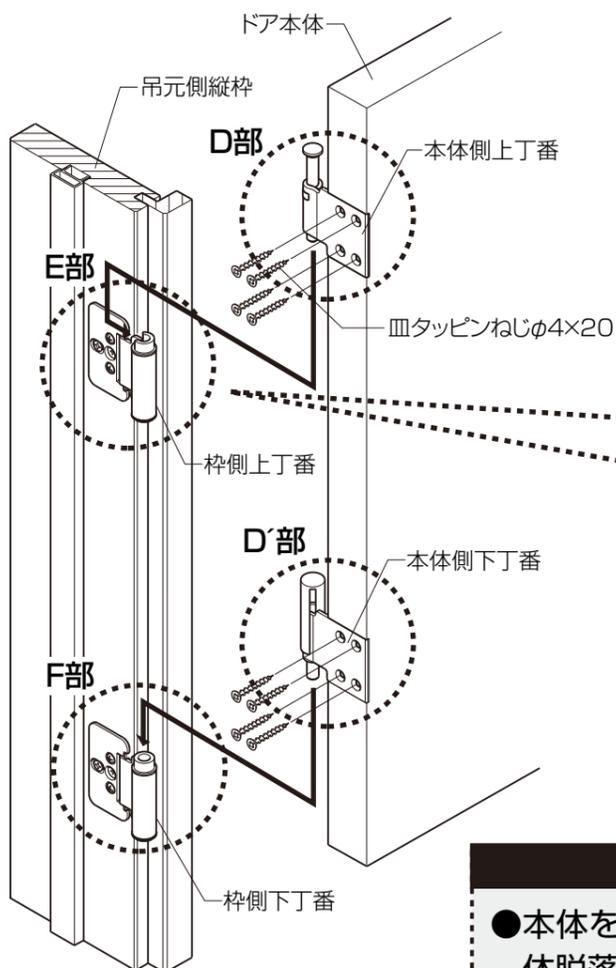
5 ケーシング材の取付け

- ケーシング材を取付けます。
 - ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせてカットします。
 - ②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
 - ③ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤を塗布し、ケーシングを固定します。
- ※仮止めする場合は、専用カクシ釘をご使用ください。

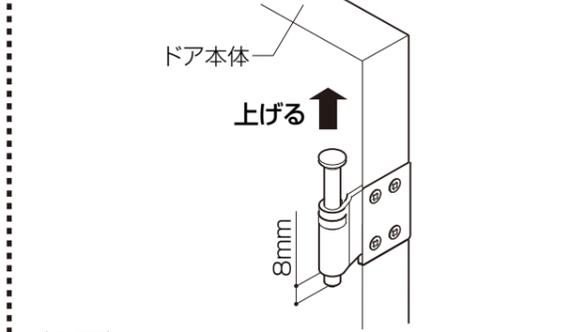


6 ドア本体の取付け

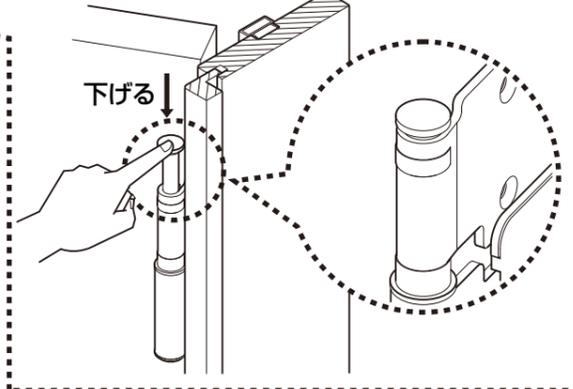
- ①ドア本体に、本体側丁番を皿タッピンねじφ4×20(枠側丁番にテープ止め)で取付けます。(D・D'部)
- ②下丁番カバーを上げます。
- ③上丁番カバーを外してください。
- ④本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。(D部)
※軸は8mm程残した位置で止まります。
- ⑤本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(F部)
※本体側下丁番の軸を垂直に差込んでください。
- ⑥本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字型溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。
- ⑦本体側上丁番軸を止まるまで下げてください。(G図)
- ⑧上丁番カバーを取付けます。
※枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑨下丁番カバーを下げます。
※枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。



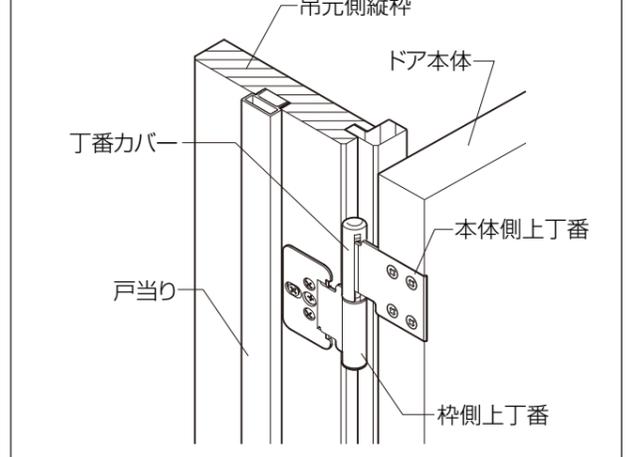
■D部詳細図



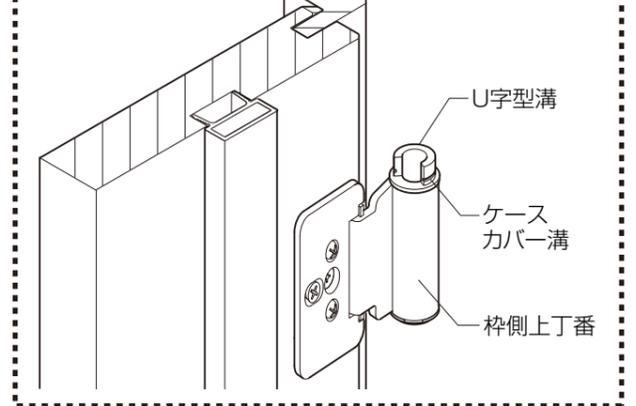
■G図



■取付け完成図



■E部詳細図



- お願い
- 本体を保管する際は、下記の状況にあたる場所には置かないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温度差の激しい場所
 - ・湿気の多い場所
 本体のソリ・ねじれなどの原因になります。
 - 長期にわたる本体の立て置き保管はせずに、寝かせた状態での保管としてください。
 - ・本体のソリ・ねじれなどの原因になります。

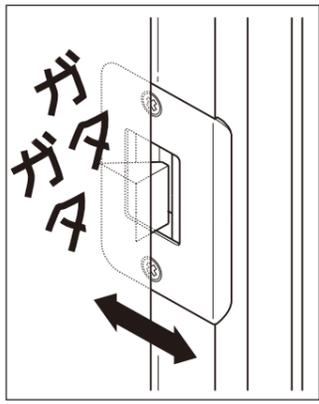
▲注意

- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず押下げてください。軸が下がっていないと、本体脱落の原因となります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因となります。

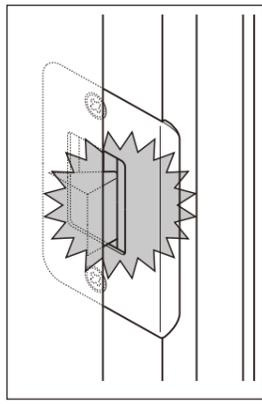
7 建付け調整

●ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

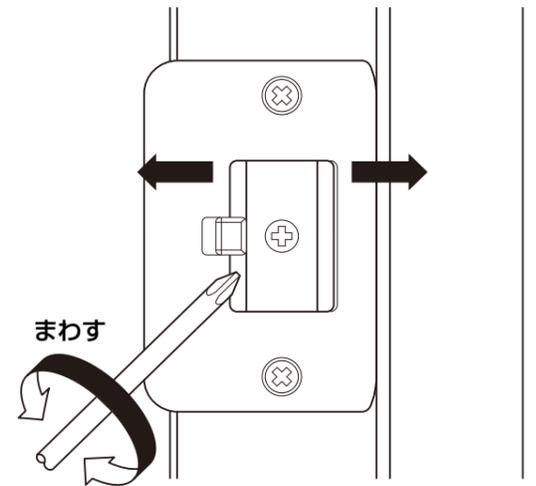
■ラッチがストライクの中でガタつく



■ラッチがかからない

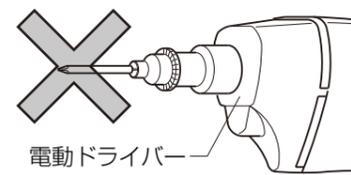
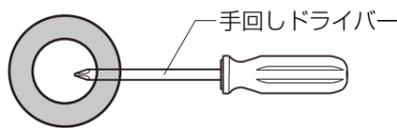


ストライク調整ねじ
可能調整範囲±3mm



② 丁番による調整

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



上下の調整

- 本体側下丁番で調整します。
- 調整幅は、上(3mm)、下(3mm)です。

| 不具合例 | 調整方法 |
|-----------------|---|
| 1. ドアの上部が枠に当たる。 | <ol style="list-style-type: none"> ①本体側下丁番のキャップを外す。 ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。 ③キャップをはめる。 |

| 不具合例 | 調整方法 |
|-----------------|---|
| 2. ドアの下部が枠に当たる。 | <ol style="list-style-type: none"> ①本体側下丁番のキャップを外す。 ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。 ③キャップをはめる。 |

左右の調整

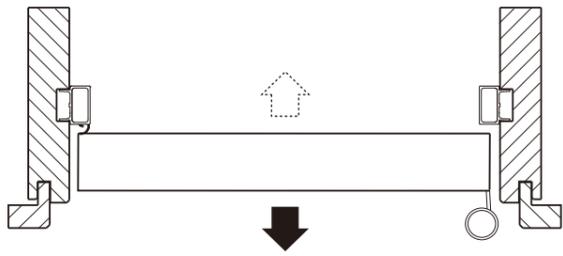
- 枠側上丁番及び枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、開き側に1.5mmです。

| 不具合例 | 調整方法 |
|------------------|---|
| 1. ドアの開き側が枠に当たる。 | <ol style="list-style-type: none"> ①固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。 ③固定ねじを締める。 |

| 不具合例 | 調整方法 |
|----------------------|---|
| 2. ドアの開き側のすき間が大きすぎる。 | <ol style="list-style-type: none"> ①固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。 ③固定ねじを締める。 |

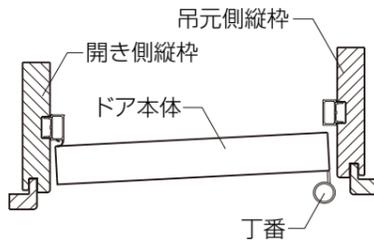
前後の調整

- 枠側上丁番及び枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、前(3mm)、後(1mm)です。



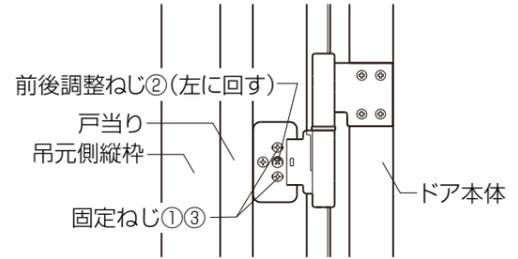
不具合例

1. 開き側の枠が前に出ている。



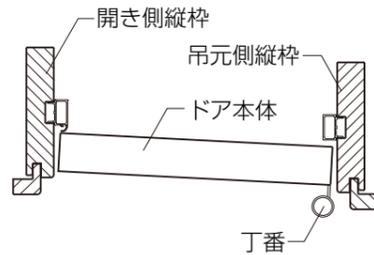
調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。



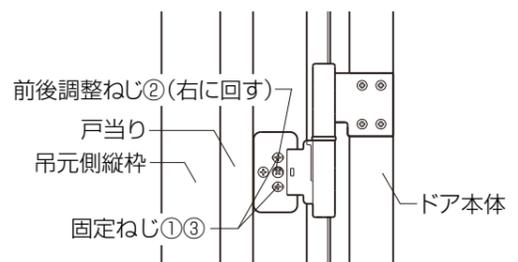
不具合例

2. 吊元側の枠が前に出ている。



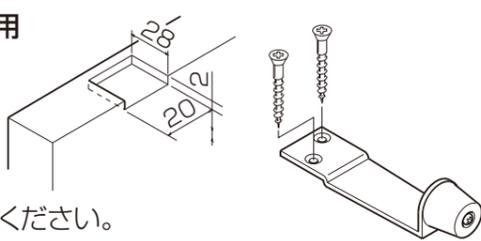
調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。



8 ドアストッパーの取付け

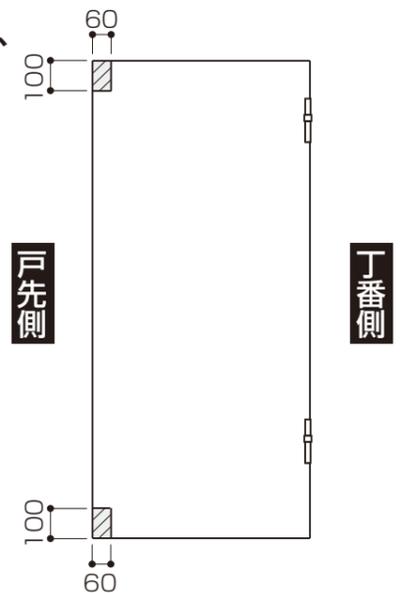
■ ドア本体上部木口取付け用 (別売)



本体上部に必ず加工をしてください。
※内開き扉には使用できません。

【本体取付け用戸当りストッパーおよび、キャッチの取付け範囲】

- 《市販のドアストッパーを取付けする場合》
※ 下図の斜線範囲内に戸当りストッパー本体、又はキャッチを取付けてください。
(他の箇所は芯材が入っていないため取付け出来ません。)
※ 取付けにあたっては、下穴をあけて手回しで固定してください。電動ドライバーなどの電動工具で締付けると空回りすることがあります。
※ 内開き扉の場合には、襖縁を避けて取付けてください。



■ 戸襖の現地張り

- 生地タイプの戸襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。
 - ① 本体の生地面側(白色)に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。
 - ② 襖縁を、本体の寸法に合わせノコギリで切断します。
 - ③ 襖縁のリケイ紙をはがし、襖紙の上から圧着してください。
- ※ 襖縁の厚さは2種類あります。厚い方を縦に、薄い方を横に使用してください。
※ 現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から上に張増してください。

お願い

- クロス張りにしないでください。ソリが生じます。

